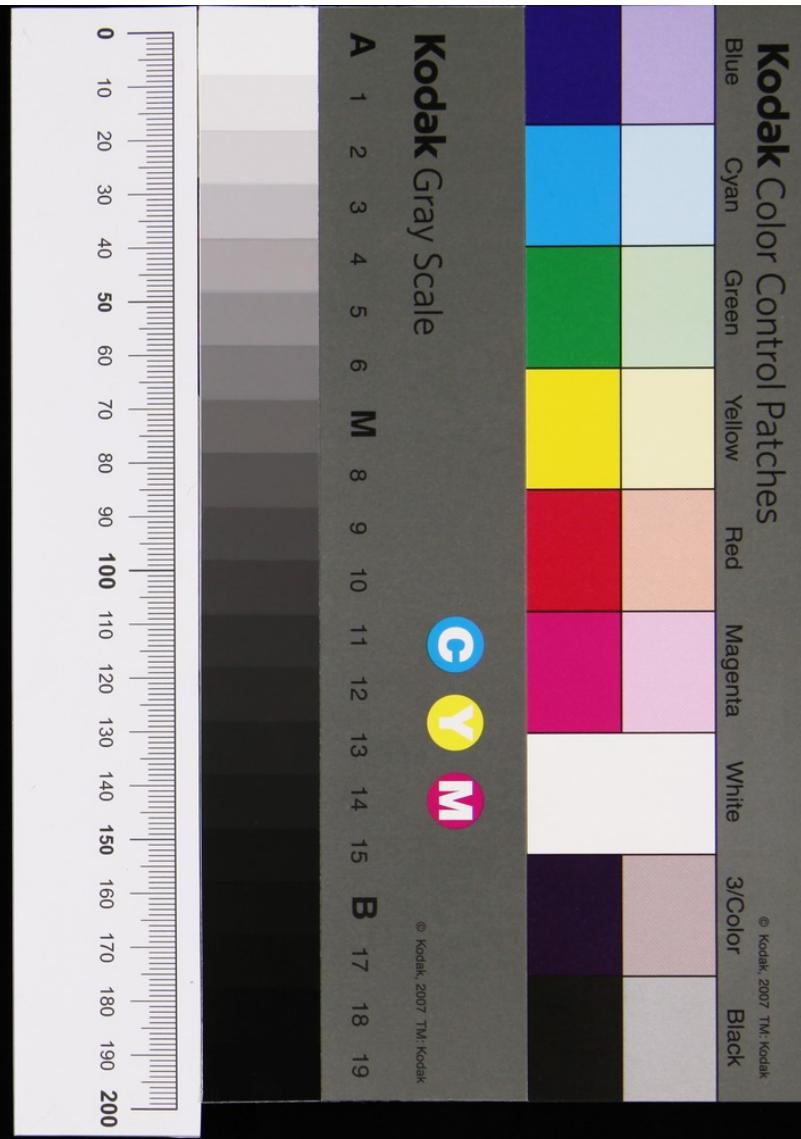


絵入源氏物語

巻十七 烏あはせ

楣山女学園大学デジタルライブラリー

楣山女学園大学図書館



ちりうて。づれうるうらひのあやまくらうを
つま。せううらうを。いゆく心よきは。一ひ
くもう。かへて。うりゆて。もれ心さへとよそげ
き。きほよ。がくは。かへり。おをつよ。かく
んに位をうり。地主。かく。せとく。とく
き。すく。まれる。ありて。心。うべ。まわす。れと
き。かへて。け。ま。い。か。く。あ。れ。う
き。う。と。は。ま。く。う。と。と。と。と。と。
え。う。く。心。う。れ。心。う。と。と。と。と。と。
き。と。と。と。と。と。と。と。と。と。



中身もうちのそがくもうりに人渠
 しる人美ナニタ冷泉十三よりおとこをうながす
 わくうちあづひしておもてよどみとほぐ
 まつらうされやうびゆう有不向えもくみ
 くまつらうぬをせうあづひしてみえ
 そくもくめぬへきくはうべれす金泉
 あくづくらうやあんやね金泉いりをサス
 まくわくまのむくうくうくうくうく
 箸金泉くくくくやまくすりみのく
 まくわくばくくくくくくくくく
 うくうくうくうくうくうくうく
 うくうくうくうくうくうくうく

まことにとてかくものなかにせれば、まつでうて。
さかのよはあんあうへやどりえわくもへぬす。
あとうへやうわくさきうじゆはあくで、ゆく
いづるをがへうたへやううとうへやくゆす
のゆひせうふ。あくれあくわくうみれあくはう
うくすあらればうくくわくとがへうと
ゆくへへうくけうれくうらうへやうあうへ
うくくくゆくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくくくくくく
うくくくくくくくくくくくくくくくく

四
五
六
七
八
九

卷之三

12

1

6

12-30

1

5

11

1

18

あくまくうらつまきとゆーとまうかで、ま
 范代のひでまくじめやもんむけうのあまれ
 うのうのううげをあてまくわくまく行乃
 うすうすうりうとがくまくもすけれど
 くわびぬほとれよぞうよびれどもくく
 ゆくのせれうらううく。神世のくわくれど
 あさもくもくやくまくもくんうとりよな
 うやびのうばうけいくもくおもびるまくも
 くもくればうれもくうく。このせのううう行の
 う。じすびさればうれう人のくくくくもく
 うれひのうのうらへくへくへくへくへ
 うくまくひううはううすもくうううりあくま
 うくまくううのううひとすく。ひのすく内くひ
 ううとうううえうものとくへう。くもくちの
 ううのまくまのゆううのゆううのゆうう
 いゆくうてふの役よ。うすきつてくうせりやまく
 とうすくひうのあくまでりまくつゆうう
 うんやうくうのううせりて。わしししし
 表御紫檀の軸。まれでのううひより。と
 うげまくはくはくはくはくはくはくはく
 うとくはくはくはくはくはくはくはくはく

巨勢相見

純貴之

右方の左と右は
書き

まえの宿をひろめちきのへりにすまうを
つまよゑのと風もあらうと日のもくをとて
かくかくがむくとさかくをあらびくよ
さうさくとくわむかくとくわむの動うり
ゑひのりとくわむかくもあればづくめ
常則 道風

١٢

道凡

序

おとゆやりつぶよれのむかとののまく
うひきわづかとくれてぢりのくびきやくまく
ごくわくらむるるのまけ

大威德

雲のへるゆきのゆれうこうよひ子ひろの
そこもううよそもう。お湯のちゑのうううそは
げよもてよられど。さひ、中持のちをば。えくく
そくとのゆきまほそ。みや

九
三

うめうそううれゆくめうへううのせ
とのゆめうそやうげりんやうのゆくうそ
うめうそやうめうそやうめうそ
うめうそやうめうそやうめうそ

あうけんさうりをととのまへど。津助云人
もよもよで、けりあはまどをあけてうを治めかを。
院のむろくもとをすてじりうやうれゑど
もとてまくきゆううのうちのうちゑど乃。
おもくうりあうと。おのとせのとせのとせぐり
けりよ。延長えんじょうの門てげく、とくのうわう階はし
あくまくつるゆせのとせをすくらむよ。よ
れお家のごり病一日のぶざくさんのがくこ
れ心よもよてお骨くつき一これもくびきやくく
お骨くつきかれて。そんあらうづけうまのれうがくと
れうがくと

れせうてこひへども落葉す。院の後どよむ
あはれに近中猶とれてゐる所あり。れぢく
このれへてゆきくらべのようぐくまよ
朱
手をくちのれにあれそののくらの
うちをつされてもすゞめあり。そも経ひざん
もゆくよしりあられば。やうくさうあらわの
はなびのくとづくらゆる事

ああもうまことにわからなくて時代の
ことも今どういふべきかさうのうす。

朱公
院

のうそだ
うそだ
うそだ
うそだ

1. 宮のミクドカラハナツトモシテアカレ
カムシタセタリセヒトスルニシテ
タマシタセタリセヒトスルニシテ

九
卷之二

卷之三

やまげ

人間の心をもつて
かうじをもつて

ゆくまつべ。侍のんのあさやうもん
月月

卷之三

さういふやうの爲めに、その間もさうして、おはなす
やうあつた。後金の

卷之九

ひざりうさのか急ぎもまつてすが、がもうの
臺盤西へ（お殿主ノ幕合）左わせたは東へ（西ひきあ経齊）
よめく（小）れそ

右ハ妙之たば
小えれ

卷之三

の

清涼殿ノ西

いえ。うづくまのくへあらわざとあり。ま
よえきぐやまほもすれいのほきれももく
くのじごくものぶゆくわざ、とくにあせえ
うつ。おとくにゆくじごくうづくまのくへ
とくにゆくじごくうづくまのくへあらわ
山水のゆくへあらわづくまのくへあらわ
されば、筆のむら人のゆくへあらわづく
いふれあくしゆくもじのゆくへあらわづ
くもく。あれゆくへあらわづくまのくへ
ゆくへのあくしゆくもじ。まよひくへ
ゆくへあらわづくまのくへあ



中良もおつまます。かくもくへり。うさん。
おゆふ。おゆふ。おゆふ。おゆふ。おゆふ。
どものそんざい心地。あくまで。うるさい。
おおけり。ほら。あくまゆし。うるさい。
うれしあきを。ひきあくまで。おゆふ。
うれしあきを。ひきあくまで。おゆふ。
うれしあきを。ひきあくまで。おゆふ。
うれしあきを。ひきあくまで。おゆふ。
室井利
うれしあきを。ひきあくまで。おゆふ。

心よし。一りんとくどき。今の大正はも
ての風習は、つまらぬうへく。その流れで
さあつたまへり。おののくさんうれしき
まことに。おののくさん日記はあへや。お
うちかどりやうへゆく。それもとく
おはす。おれの心のけい。それとこれ
をうそおれ。おれのうそ。おれを
いやうて、ひざひざうそ。おれのうそ。
うそうそおれ。おれのうそ。おれを

べのすよもぐれうをひて、じう一語す。うう
西田へありうる。花のえも人のみうちもの
うえで、鳥のえづれむりやうりて、あく
ばうやうぞ。かずのの方より語りす。まへゆうえ
うみて、後ろ語りのとよは、いの定をしゆ。
れうくのゆきに、ばくよもくわをかんとくう
まくはればく。うのうのゆきくゆ。
だくゆへぐ。今づきくとす。まくはれ
ゆきゆくとす。うをせくくまくはれ
まくはれづけとす。うめくまくはれ
れくをまくはれとす。うめくまくはれ
くのゆきくゆ。まくはれくゆ。

うかひのまへておひづり。ばあせはのまのね
えくすみる。うし。中じゆうきよ。あらそ。おとこら
うりへ。うらへ。ぐまへ。あらそ。おとこら
のちのえどおとこいのちじゆう。うし。おとこ
こめうわで。後のせのくとひく。けくとひく
どものべじとひく。やまとくわのとひく。を
もく。えくすみる。うし。おとこら。おとこら
おとこら。おとこら。おとこら。おとこら。おとこら
おとこら。おとこら。おとこら。おとこら。おとこら
おとこら。おとこら。おとこら。おとこら。おとこら
おとこら。おとこら。おとこら。おとこら。おとこら

